




● アフターサービスについて

-  使用中に正常に作動しなくなった時は、まず本文の「故障とお考えになる前に」を参考に
してチェックしてください。「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店を
経由して本社サービスにお申し付けください。
-  本製品を修理依頼される場合は、①保証書②本体③リモコン④故障内容・状況を明記した
メモの4点をセットにしてお買い上げ店へ直接ご持参ください。
-  保証期間を過ぎた場合は、住所・氏名・電話番号を明記し上記とセットでお買い上げ店へ
直接ご持参ください。尚、この場合は有償修理となります。

リモコンエンジンスターター
エンスタ・バイ
取付・取扱説明書

リモコンエンジンスターター




Engsta V

エンスタ・バイ

取付・取扱説明書 (保証書付)

このたびは、エンスタ・バイをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用ください。
また、お読みになった後も本冊子は車検証入れなどに保管してください。そして、
本製品を譲渡される場合や別の車に取付け直す場合も、本冊子を必ず製品に付帯さ
せ、お使いになる方がいつでも見れる様にしてください。また、コーションラベル
も販売店から購入してください。

・・・この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。・・・

-  **危険**・・・ 死亡を含む重大事故の原因と成り得ることを意味する。
-  **警告**・・・ 死亡を含む重大事故に至る可能性があることを意味する。
又、法律に違反することを意味する。
-  **注意**・・・ 人身事故の原因と成り得ることを意味する。
又、車や製品の損傷、故障等の原因と成り得ることを
意味する。

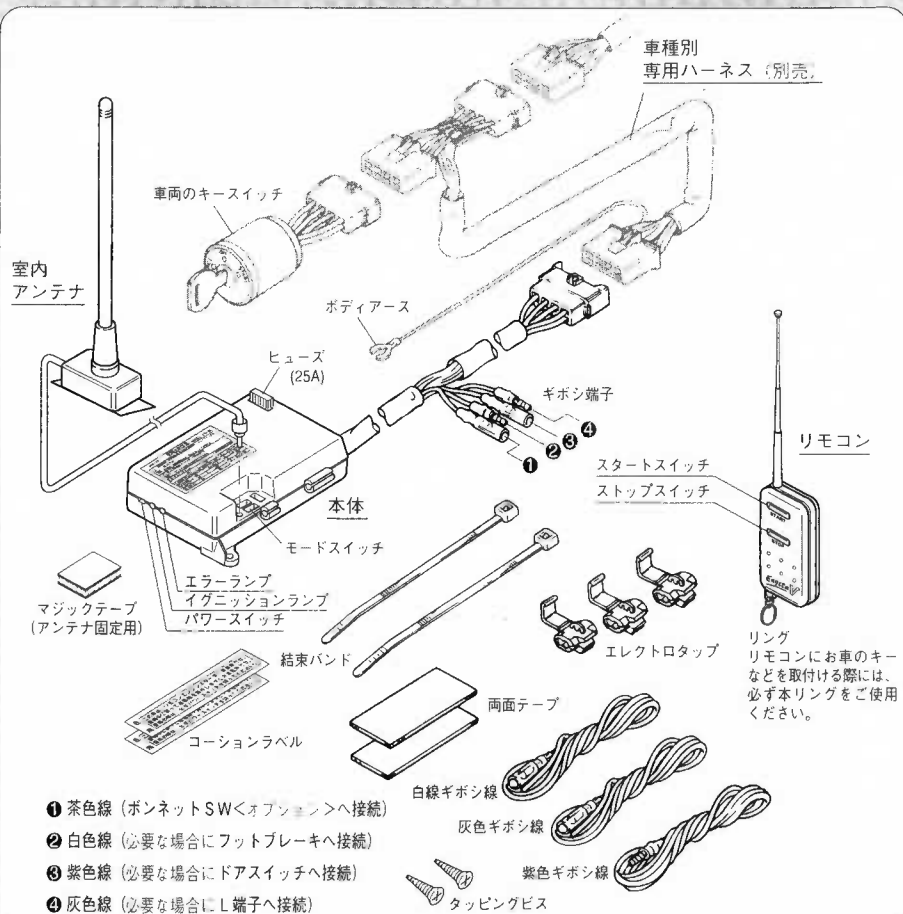
警告

本製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。分解したり改
造したりすることは法律で禁じられていますので、絶対になさらないでください。
リモコンケースの裏面に貼られている技術基準適合証明ラベルは、はがさないでく
ださい。このラベルがはがれた状態で使用すると電波法違反となります。

目次

お取り付け手順	3	ご使用上の注意	15～17
お取り付けできる車は	4	ご使用方法	18～19
お取り付けの前に	5	メンテナンス	20
車種別専用ハーネスの取り付け	6～7	故障とお考えになる前に	21
オートマチック車の認識	8	ブザー音とモードスイッチについて	22
動作確認	9	仕様・保証規定	23
うまく動作しない時は	10～11	アフターサービスについて	24
各種取り付けを行います	12～13	保証書	24
ABS装着車にお乗りのお客様へ	14		

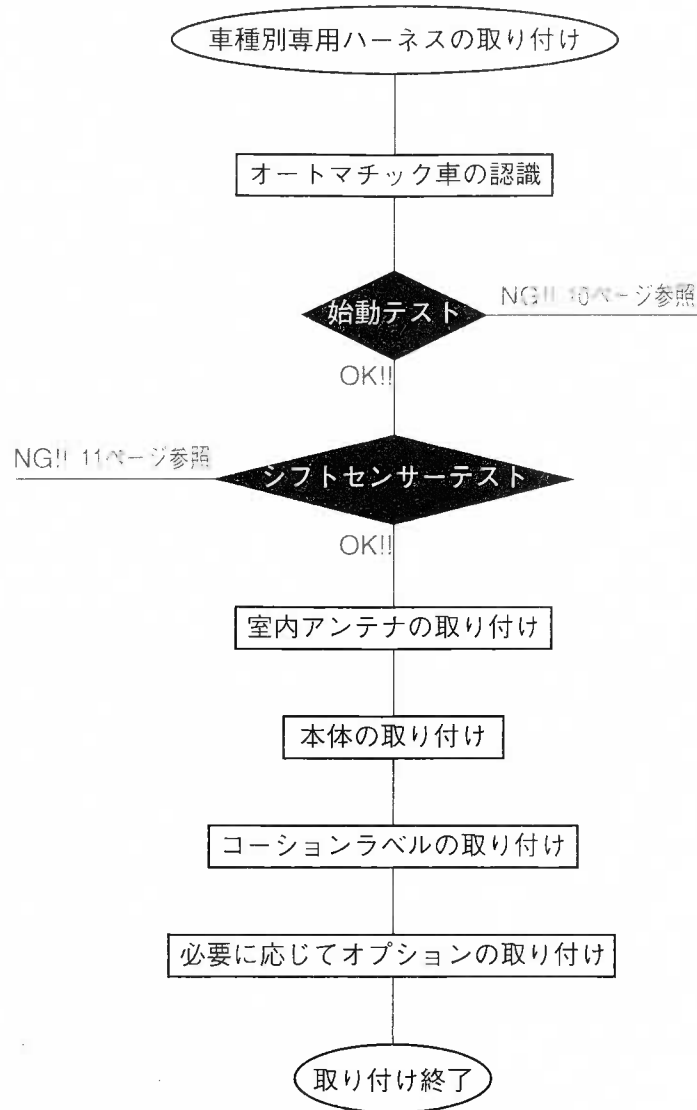
セット内容 (お取り付け前にご確認下さい。)



● お取り付け手順

⚠ 注意

オートマチック車の認識動作を行わないと、本体は動作しません。



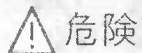
● お取り付けできる車は・・・



危険
詳しくは車種別専用ハーネス適応表をご覧ください。

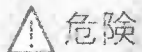
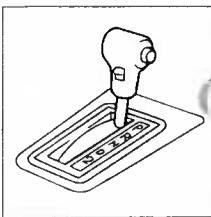
- ▲ 国産車のみ、お取り付け可能です。
外国車へのお取り付けはできません。

国産車



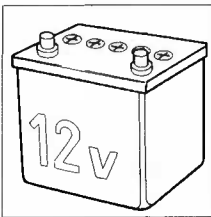
危険

- ▲ オートマチック車のみ、お取り付け可能です。
マニュアルミッション車へはお取り付けはできません。



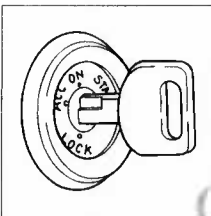
危険

- ▲ 12V車のみ、お取り付け可能です。
24V車へのお取り付けはできません。



注意

- ▲ 電子制御燃料噴射装置搭載車のみ、お取り付け可能です。
電子制御燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することができるお車のみ、お取り付け可能です。
エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とするお車、電子制御キャブレター搭載車へのお取り付けはできません。

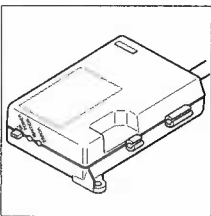


● ご注意



注意

- ▲ エンスタ・ブイ単体でのみ、お取り付け可能です。
他社製のエンジンスターター、もしくはターボタイマーが取り付けられているお車にはお取り付けはできません。
(併用すると、それぞれが正しく動作しない恐れがあります。)

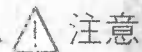
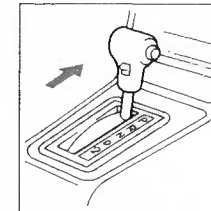


● お取り付けの前に



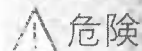
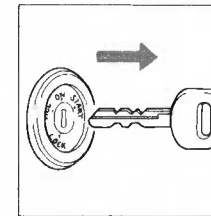
危険

- ▲ シフトレバーは、必ずPレンジに入れてください。



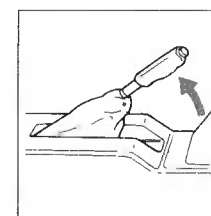
注意

- ▲ お車のキーは必ず抜いてください。



危険

- ▲ パーキングブレーキは確実にかけてください。



警告

- ▲ 他社製ハーネスは使用しないでください。
他社製エンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないでください。車輛故障、製品故障の恐れがあります。また保証対象外になります。

車種別専用ハーネス適応表をよくご覧になり、お車にあった当社製専用ハーネスをご使用ください。

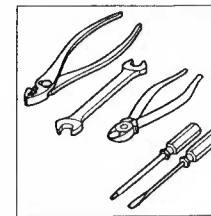


MEMO

- ▲ 取り付け工具について

この商品を取り付ける際に必要な工具は一般的には次の通りです。

プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナなど。



● 車種別専用ハーネスの取り付け

MEMO

キースイッチの配線カプラーは基本的には車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なのでそれを目安にしましょう。

ステップ1 キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は大別すると次のタイプになります。

タイプ1

アンダーカバーを外し、キーシリンダーより出ている配線の約20~30cm先にカプラーが位置しているタイプ

専用ハーネス例

T001	T002	T005
T006	N022	N025
M065	S071	

タイプ2

ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ

専用ハーネス例

T003	T004	N023
M067	D082	

タイプ3

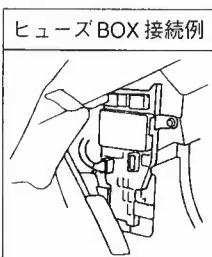
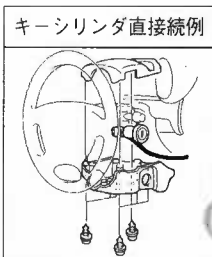
MEMO

ホンダ車の場合アクセルペダル横のヒューズBOX内に接続されている場合もあります。

ヒューズBOXやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ

専用ハーネス例

T008	H046	H048
H049		



● 車種別専用ハーネスの取り付け

タイプ4

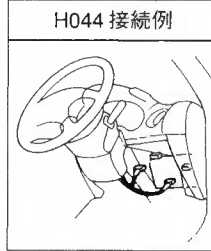
注意

専用ハーネスが2本に分れているので、必ず全て接続してください。

配線カプラーが2箇所に分れているタイプ
それぞれの位置が離れているものもあります。

専用ハーネス例

H041	H043	H044
H045	H047	D083
A093	A094	

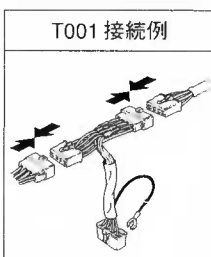


注意

カプラーの接続は振動等で外れないように、最後まで確実に差し込んでください。

ステップ2 専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーをいったん外します。
車種別専用ハーネスを、外したカプラーの間に割り込ませます。



注意

塗装されている金属部分や、車の振動等でゆるんでしまう場所に取り付けると、本体がうまく動作しない事があります。

ステップ3 アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。

アース線接続が不完全な場合、動作が不安定となり、オートマチック車の認識情報が消去されたり、エンジンが駆動されない等の不具合が生じます。接続箇所を十分確認の上、適正な場所に接続してください。

取付けに適している場所 (ネジ)	取付けに適していない場所 (ネジ)
<ul style="list-style-type: none"> ● 純正車輛電装品のアースポイントに使用されているネジ ● ハンドルポストやペダル奥の車体金属部分に止められた大きめのネジ 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンダーダッシュやセンターコンソール等、樹脂を止めているネジ ● メッキや塗装により、電導率の低下した金属部分に止められたネジ
<p>黒色アース線</p>	

ステップ4 本体を接続します。

本体から出ているカプラーとハーネス先端のカプラーを接続します。

注意

ステップ1の前に専用ハーネスのカプラーと本体のカプラーを接続してください。接続前に、本体のパワーケーブルは入れないでください。

MEMO

点滅しない場合は、アースが確実に取られているか、またハーネスの品番が間違っていないか、再確認してください。

注意

この時、エンジンは始動させないでください。

注意

シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作してください。

MEMO

断続音に変化しない場合は、一旦作業を中断し、専用ハーネス付属の専用ハーネス接続時の注意事項をご確認ください。(追加配線の必要があります。)尚、追加配線の後はステップ1からやり直してください。

注意

断続音に変化したことを必ず確認してください。

注意

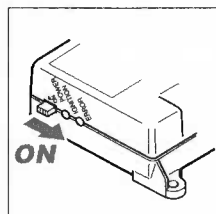
車輛のバッテリー端子を外したり、専用ハーネス(アース線)を外すとオートマチック車の認識情報が消去されます。この場合には、再度オートマチック車の認識を行ってください。

● オートマチック車の認識

以下の操作ではエンジンを始動させないでください。

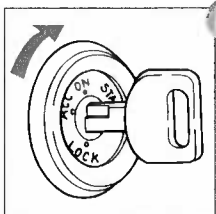
ステップ1 本体のパワースイッチをONにします。

イグニッションランプ(緑)が3回点滅した後、消灯します。
またこの時本体から、ブーブ……と断続音がします。



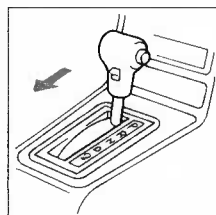
ステップ2 キーをさし込み、ONの位置にします。

この時、本体から断続音が、ブブブブブブ……へと変化します。



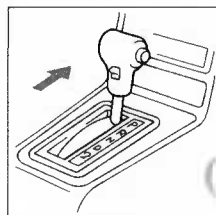
ステップ3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

本体から断続音が、ブブブブブブ……へと変化します。

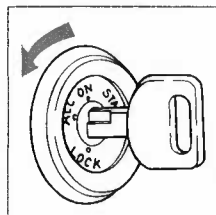


ステップ4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時、本体からブブブブブブ……と音が鳴り、オートマチック車の認識が終わった事を知らせます。



ステップ5 キーをOFFの位置に戻し抜き取ります。



OK! 以上でオートマチック車の認識は終了です。

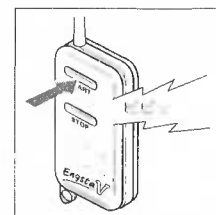
● 動作確認

危険

安全の為、サイドブレーキをしっかりと引いてください。重大事故につながる恐れがあります。

ステップ1 リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、スタートスイッチを音(ピピッ)が鳴るまで押します。



MEMO

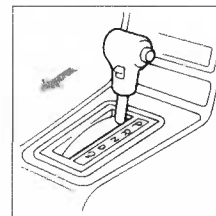
ステップ2 お車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、まずメーターパネルが点灯します。そして数秒後にセルモーターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。再始動してもエンジンが始動しない場合は10ページの「エンジンがうまく始動しない時」を参照してください。また、ABS警告灯が消灯しない場合は14ページの「ABS装着車にお乗りのお客様へ」を参照してください。

注意

ステップ3 シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンが始動した後、キーをささずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。止まらない場合は11ページの「シフトセンサーがうまく働かない時」を参照してください。



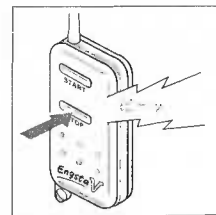
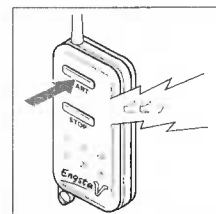
注意

ステップ4 シフトを戻し(Pレンジ)リモコンで、再度エンジンを始動します。

一部のデジタルメーター搭載車ではリモコン始動後少し遅れてメーターパネルが点灯することがあります。

ステップ5 リモコンのストップスイッチを押しエンジンが停止する事を確認します。

リモコンのストップスイッチを音(ピーッ)が鳴るまで押します。本体が信号を受信するとエンジンは停止します。



OK! 以上で動作確認は終了です。

● うまく動作しない時は・・・

エンジンがうまく始動しない時



注意
 マルチは必ず抜き差ししてください。

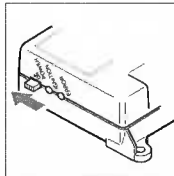


?? エンジンは始動しているにも関わらず数秒で停止してしまい、自動的に再始動（リトライ）が行われてしまう場合。



エンジンの自動始動検出がうまく行われていないと考えられます。こういった場合はL端子検出に変更しましょう。

ステップ1 一旦本体のパワースイッチを切ります。



MEMO
 車種によって室内からL端子線をとれるお車もあります。詳しくは本社サービスまでお問い合わせください。

ステップ2 車輛のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とはイグニッションONの時1〜3V、エンジンが掛かっている時12〜14Vになる線です。



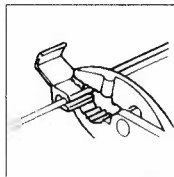
この部分より検出します



注意
 接触不良がおきない様に確実に取り付けてください。

ステップ3 付属の灰色コードを接続します。

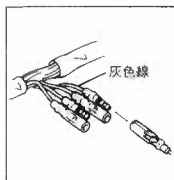
付属の灰色コードのギボシ端子の付いていない方を、オルタネーターから出ているL端子線に、付属の電クロタップで接続します。



注意
 灰色コードがボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車輛故障の原因となります恐れがあります。

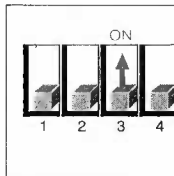
ステップ4 灰色コードのギボシ端子を図のように本体に接続します。

灰色コードをエンジンルームからグロメット等を利用して車室内に引き込み、エンスタ・ブイ本体の灰色コードに接続します。



灰色線

ステップ5 モードスイッチの3番をONにします。



以上でL端子検出への変更は終了です。パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動できる事を確認してください。

● うまく動作しない時は・・・

シフトセンサーがうまく働かない時

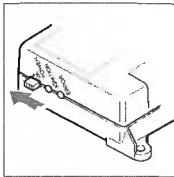


?? リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合。



工場出荷時の設定では、オートマチックシフトの検出がうまく行われていない事が考えられます。こういった場合はフットブレーキ検出へと変更しましょう。

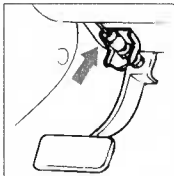
ステップ1 一旦本体のパワースイッチを切ります。



MEMO
 フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。

ステップ2 車輛のフットブレーキスイッチを探します。

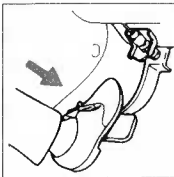
フットブレーキスイッチはブレーキペダルの横付近にあります。



MEMO
 お車のリヤストップランプを点灯させる為の線です。

ステップ3 ブレーキペダルを踏んだ時に12Vになる線を見つけます。

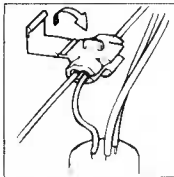
ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだ時に12Vとなる線です。



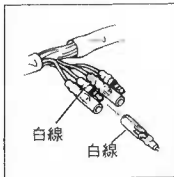
注意
 接触不良がおきない様に確実に取り付けてください。

ステップ4 付属の白色コードを接続します。

付属の白色コードのギボシ端子の付いていない方を、ステップ3で見つけた配線に付属の電クロタップで接続します。



ステップ5 白色コードのギボシ端子を図のように本体に接続します。



以上でフットブレーキ検出への変更は終了です。パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止する事を確認してください。

警告

エアバッグ装着車は、エアバッグカバーには固定しないでください。エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。

警告

室内アンテナを座席寄りに設置しないでください。急ブレーキ等により身体が前方に倒れた際、室内アンテナに顔面をぶつけてケガをする恐れがあります。

注意

室内アンテナは、運転席の前方に設置してください。

警告

配線コードが挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本体や車輛の故障、さらには車輛火災を起こす可能性があります。

警告

本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等、高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に濡れる場所には設置しないでください。

危険

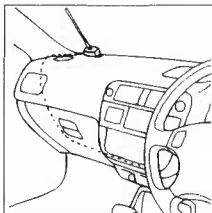
ボンネットを開けて作業をしている際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼ってください。

● 各種取り付けを行います

室内アンテナの取り付け

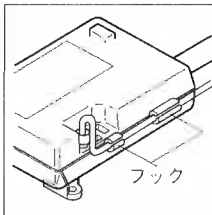
ステップ 1 室内アンテナを取り付けます。

ダッシュボードサイドのビラーから10cm以上離し、できるだけフロントガラスに近い平らな場所に設置してください。この際、アンテナエレメントがフロントガラスと平行になる様に座金の角度を調節します。尚、角度の調節は、アンテナエレメントにストレスをかけない様に基台をしっかり押さえて行ってください。



ステップ 2 本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。

アンテナジャックに差した後、抜け防止フックにアンテナ線をかけます。



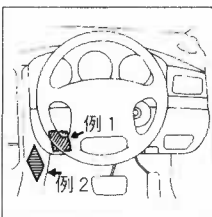
本体の取り付け

ステップ 1 配線を収納します。

ここまでに配線した、コード、アンテナ線等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定してください。また、未接続のギボシ端子は、ビニールテープ等で絶縁してください。

ステップ 2 本体を取り付けます。

本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の両面テープ等を使用して取り付けます。落下して運転に支障をきたす恐れがある場合には、必ず付属のタッピングビスを併用して確実に固定してください。



ステップ 3 外したアンダーカバー等を取り付けます。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼ってください。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去してください。



以上で取り付けは終了です。

● 各種取り付けを行います

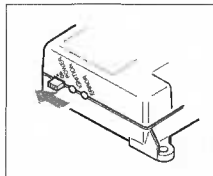
ボンネットスイッチを取り付ける場合

ボンネットスイッチ（別売）の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時には、リモコンでのエンジン始動ができなくなり、作業中の安全を確保できます。できるだけボンネットスイッチの取り付け、配線を行ってください。取り付けに関しては、ボンネットスイッチの取付説明書をよくお読みください。

ドアスイッチ配線を行う場合

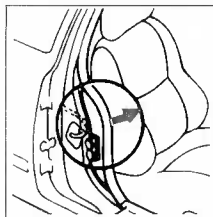
ドアスイッチへの配線を行うことにより、リモコンでのエンジン始動中に、運転席のドアを開けるとエンジンを停止させる事ができるようになります。

ステップ 1 一旦本体のパワースイッチを切りま



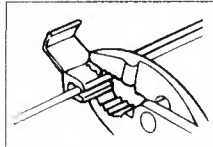
ステップ 2 運転席のドアスイッチ配線を探しま

す。ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。

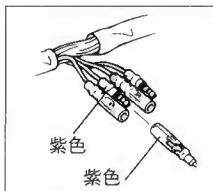


ステップ 3 付属の紫色コードを接続します。

付属の紫色コードのギボシ端子の付いていない方を、ステップ2で見つけた配線に付属のレクトロタップで接続します。



ステップ 4 紫色コードのギボシ端子を図のように本体に接続します。



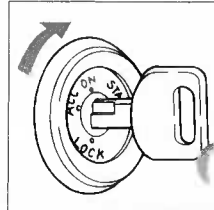
以上でドアスイッチ配線は終了です。パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認してください。

● ABS装着車にお乗りのお客様へ

リモコン始動時にABS警告灯が点灯する場合は、キー始動学習を行ってください。

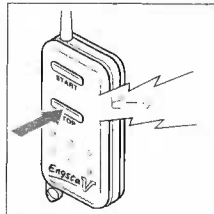
キー始動学習機能の設定方法

ステップ1 キーをONの位置にします。



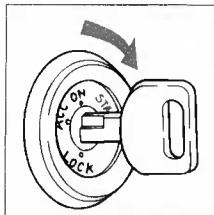
ステップ2 上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音(ブブブブブブ)が鳴ります。

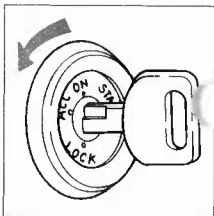


ステップ3 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

本体から音(ブブブブ)がしてキー始動学習が行われたことを知らせます。



ステップ4 キーをOFFの位置にします。



注意

10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。

注意

30秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。(本体から“ピーピー”という警告音がします)

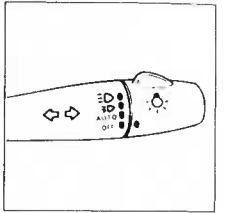


以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

● ご使用上の注意

▲ オートライト装着車について

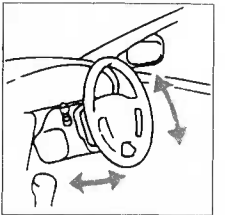
オートライト装着車ではオート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、お車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用ください。



MEMO

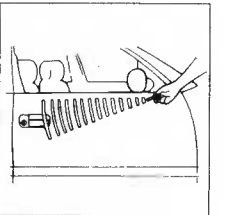
▲ オートチルト装着車について

ドアスイッチ配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジン停止させることもできます。



▲ リモコンドアロック装着車について

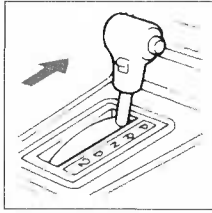
純正及び一部の後付けリモコンドアロック装着車では、リモコンによるエンジン駆動中は、リモコンドアロックが作動しない場合があります。これはリモコンドアロックの仕様によるもので、異常・故障ではありません。キーを使ってドアを開閉してください。



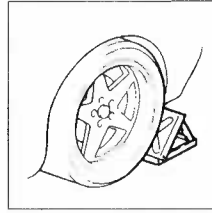
▲ 始動距離について

始動距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方などによって変化します。一般に周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高压送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると始動距離は短くなります。

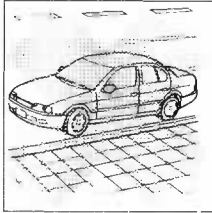
ご使用上の注意



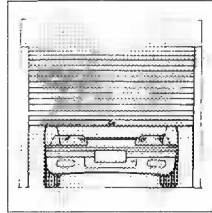
注意
シフトレバーは必ずPレンジに入れてご使用ください。Nレンジでは使用しないでください。パーキングブレーキは、必ずかけてください。



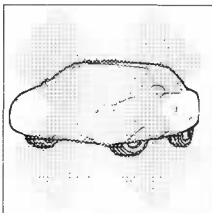
注意
斜面で使用される場合は、必ず輪止めをしてください。



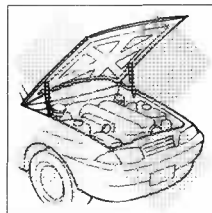
警告
公道上ではご使用にならないでください。必ず駐車場、又は私有地内でご使用ください。(公道上での使用は違法となります)



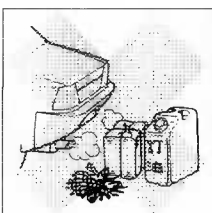
危険
密閉されたガレージ内ではご使用にならないでください。(排気ガスが充満して危険です)



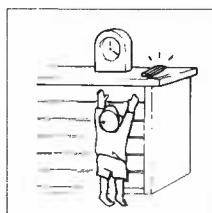
危険
お車にボディカバー等を掛けたままでご使用にならないでください。(火災の恐れがあります)



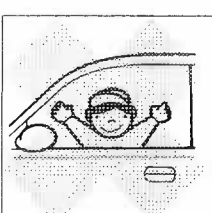
危険
ボンネットを開ける時は本体のパワースイッチを切ってください。又は別売のボンネットスイッチを取り付けてください。(事故の恐れがあります)



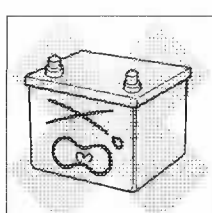
危険
リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに可燃物がないことを確認してからご使用ください。(火災の恐れがあります)



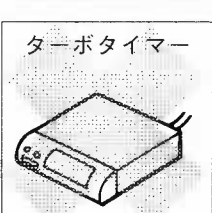
危険
リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないでください。(事故の恐れがあります)



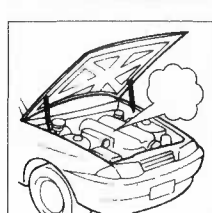
危険
人(特にお子様)やペットが車内にいる時は、絶対にエンジンを始動しないでください。(お子様による車輛の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります)



注意
バッテリーの弱っているお車や改造車では、正常にエンジン始動できない場合があります。

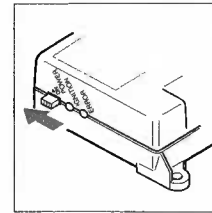


注意
他社製エンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対にしないでください。(故障や誤動作の原因となります)

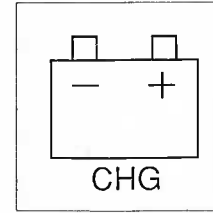


注意
暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をする恐れがあります。エンジンを停止後、火傷の恐れのないことを確認してから運行前点検を行ってください。

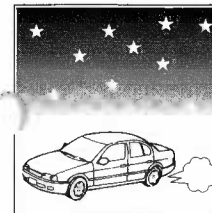
ご使用上の注意



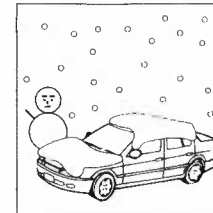
危険
下記の場合には、パワースイッチを切ってください。
○整備、車検等でお車をお預けになる場合
○当製品の取り扱い方を知らない方が運転する場合(事故の恐れがあります)



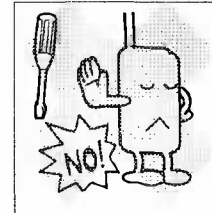
注意
キーでエンジンを始動した後に車輛の充電警告灯が消えない場合は、エンジンスターターを使用せずに車輛の点検整備をしてください。



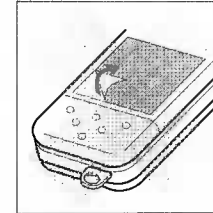
注意
環境保護のため必要以上のアイドリングは、行わないでください。



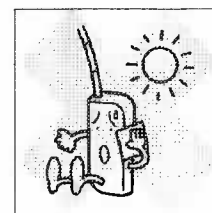
注意
寒冷地ではエンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで1秒以内にエンジンが始動するように車輛を整備してください。



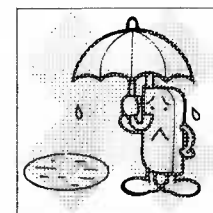
警告
この製品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられています。(絶対にしないでください)



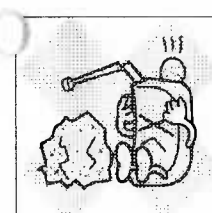
警告
ラベルを剥がしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられています。(絶対にしないでください)



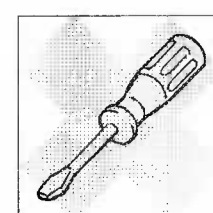
注意
リモコンは、高温になる場所には放置しないでください。(変形、変色や故障の原因となります)



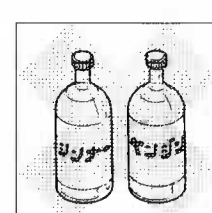
注意
リモコン、及び本体は水に濡らさないでください。(故障の原因となります)



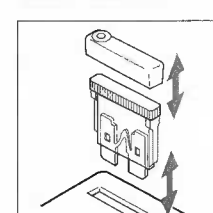
注意
リモコンを落としたり、硬い物にぶつけないでください。(故障の原因となります)



注意
本体の内部に物を入れないでください。(故障の原因となります)又、分解・改造はしないでください。(保証できません)



警告
リモコン及び本体が汚れた場合は、専用の中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってからふき、乾いた布でもう一度ふいてください。ベンジン、シンナー等は絶対にご使用にならないでください。(変形、変色や故障の原因となります)



注意
ヒューズ切れの前後は高温となりますので、交換には充分注意してください。又、交換作業等でのヒューズキャップつけ忘れや、取外したままの使用は危険です。必ずキャップをして、ご使用ください。

● ご使用方法

⚠ 注意

降車時に、下記の事を確認してください。

1. パーキングブレーキを確実にかける。
2. シフトレバーはPレンジに入れる。
3. 必要に応じてエアコン（ヒーター）をセットする。
4. キーを抜く。

MEMO

リモコンによるエンジン駆動中は、本体から警告音（ブツ）が数秒間隔で鳴り続け、使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

⚠ 注意

シフト操作を行わずにキーをOFFにしてもエンジンは停止しません。

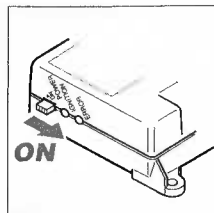
⚠ 注意

キーを回す際に、誤ってSTTの位置まで回すと、セルモーターを痛める恐れがあります。

リモコンでエンジン始動

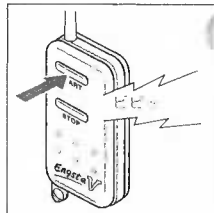
ステップ 1 本体のパワースイッチをONにします。

イグニッションランプ（緑）が3回点滅します。同時に本体から音（ブッブッ）が鳴ります。



ステップ 2 リモコンでエンジンを始動します。

リモコンのロッドアンテナを、最後まで引きだして、スタートスイッチを音（ビビッ）が鳴るまで押します。数秒後、セルモーターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動（リトライ）します。



ステップ 3 走行します。

お車のキーを差し込み、ONの位置まで回してください。あとは通常どおり走行できます。尚、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアをあけるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動してください。

リモコンでエンジン停止

リモコンによるエンジン駆動中は、リモコンのストップスイッチを音（ヒーッ）が鳴るまで押す事で、ただちにエンジンを停止させる事ができます。

タイマーで自動停止

リモコンによるエンジン始動後、約20分でエンジンは自動停止します。

● ご使用方法

スリープ機能について



車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能がはたらきます。スリープ機能がはたらくと、リモコンによるエンジン始動はできません。

スリープ機能を解除するときは、本体のパワースイッチを一旦切って入れなおすか、キーを使ってエンジンを始動させてください。

● メンテナンス

⚠ 注意

お買い上げの製品にセットされている電池は検査時に機能や性能をチェックするモニター電池のため、短期間の使用で寿命となることがあります。

⚠ 注意

電池交換の際は、2個とも新品の電池（酸化銀電池SR44）に交換してください。

⚠ 注意

電池の+、-の向きに注意します。

MEMO

電池交換後は送信テストを行いましょ。

⚠ 注意

専用ハーネスを外したり、整備の際にお車のバッテリーを交換した場合、再度オートマチック車の認識（その他設定）からやり直す必要があります。

MEMO

IDコードの設定は本体側の操作で行えますので、本体をお送りいただく必要はありません。

⚠ 注意

元のリモコンは使用できなくなります。

電池の交換方法

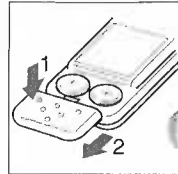


本製品は、新品の電池で約10,000回以上（通常の使用で2年程度）使用できるように設計されております。使用中、受信距離が短くなってきたら電池を交換してください。

ステップ1

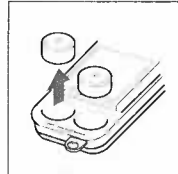
電池ぶたをはずします。

電池ぶたを押しつけるようにしながら矢印の方向にスライドします。



ステップ2

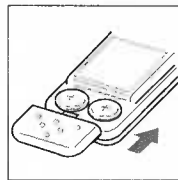
電池（SR44）を交換します。



ステップ3

電池ぶたを閉じます。

はずしたときの逆の要領で電池ぶたを閉じます。



本体の電源を切る時は



お車を車検整備に出す時や、旅行等により長期間使用しない場合は安全の為、本体のパワースイッチを切ってください。尚、本製品はメモリーセーブ機能を採用しております。再にお使いになる場合、パワースイッチをONにするだけでご使用できます。

リモコンを紛失した時は



リモコンを紛失または破損（修理不可能の場合）した場合は、リモコンのみの購入ができます。この場合、新しいリモコンのIDコードを本体に登録する必要があります。詳しくは、リモコンの説明書をご覧ください。リモコンは、販売店または取扱店へご注文ください。

● 故障とお考えになる前に

このような時	チェックしてください	処 置
リモコンのスタートスイッチを押しても音が鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> ○ スイッチを押す時間が短くありませんか？ ○ リモコンの電池は消耗していませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 0.5秒以上スイッチを押してください ○ 電池を新品に交換してください
リモコンのスタートスイッチを押してもまったく作動しない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音（ビピッ）がするまでスタートスイッチを押していますか？ ○ お車のキーがONになっていませんか？ ○ リモコンのアンテナを伸ばしていますか？ ○ 室内アンテナのアンテナプラグを本体に差し込みましたか？ ○ リモコンの電池は消耗していませんか？ ○ 車輻のバッテリー端子が外れていませんか？ ○ 15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか？ ○ お車のバッテリーは弱っていませんか？ ○ エラーランプは点滅していませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音（ビピッ）がするまで押してください ○ キーを抜いてください ○ アンテナを伸ばしてください ○ アンテナプラグを差し込んでください ○ 電池を新品に交換してください ○ 端子を接続しオートマチック車の認識を行ってください ○ スリープモードになっています ○ 本体のパワースイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させてください ○ お車のバッテリーを充電してください ○ エラーランプを消灯させてください
リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない	<ul style="list-style-type: none"> ○ お車のシフトレバーがPレンジに入っていますか？ ○ お車のバッテリーは弱っていませんか？ ○ オルタネーター（L端子）配線を行いましたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ シフトレバーをPレンジに入れてください ○ お車のバッテリーを充電してください ○ オルタネーター（L端子）配線が正しく行われていない可能性があります。正しく配線してください。
リモコンのスタートスイッチを押すと再始動動作を行うが、エンジンは始動しない	<ul style="list-style-type: none"> ○ オルタネーター（L端子）配線を行いましたか？ ○ お車のバッテリーは弱っていませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ オルタネーター（L端子）配線を行ってください ○ お車のバッテリーを充電してください
本体の電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本体のヒューズが切れていませんか？ ○ 専用ハーネスのカプラーが外れていませんか？ ○ 専用ハーネスの黒線（アース線）が外れていませんか？ ○ 専用ハーネスの品番は正しいですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒューズを交換してください ○ カプラーを確実に差し込んでください ○ 黒線（アース線）を確実に接続してください ○ 車種別専用ハーネス適応表をご覧ください
本体のエラーランプが点滅してリモコン始動できない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運転席のドアスイッチへの配線（任意）を行って、ドアを開いていませんか？ ○ ボンネットスイッチ（オプション）の配線を行ってボンネットを開いていませんか？ ○ ドアスイッチへの配線（任意）が間違っていますか？ ○ フットブレーキへの配線（必要時）が間違っていますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ドアを閉めてください ○ ボンネットを閉めてください ○ 正しく配線してください ○ 正しく配線してください
始動距離が短くなった	<ul style="list-style-type: none"> ○ リモコンの電池は消耗していませんか？ ○ リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか？ ○ リモコンのアンテナを伸ばしていますか？ ○ 室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか？ ○ 周囲の環境は変化していませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電池を新品に交換してください ○ 送信の際はアンテナに触れないようにしてください ○ アンテナを伸ばしてください ○ アンテナプラグを差し込んでください ○ 15ページの「始動距離について」を参照してください
リモコンのスタートスイッチを押すと本体のイグニッションランプとエラーランプが交互に点滅し、警告音（ピーピー）が鳴る	<ul style="list-style-type: none"> ○ お車のシフトレバーがPレンジに入っていますか？ ○ お車のキーがACCになっていませんか？ ○ 専用ハーネスの品番は正しいですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ シフトレバーをPレンジに入れてください ○ キーを抜いてください ○ 車種別専用ハーネス適応表を再度確認してください ○ お車の車種名・年式・型式をハーネス表に照合後、品番が正しい場合はサービスまでお問い合わせください ● 警告音はキーをONにすれば停止します

● ブザー音とモードスイッチについて

通常使用時のブザー音一覧表
(オートマチック車認識・キー始動学習を除く)

ブザー音	本体のブザーが鳴る場合
ブブブブ	本体の電源が入った場合 (同時にイグニッションランプも3回点滅)
ブ	リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合/オルタネーター (L端子) 配線が正しい場合
ブ	リモコンでエンジンが始動した場合
ブ ~ ブ	リモコンでエンジン駆動中 リモコン始動直後から5秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなります 自動停止直前 (1分前) は連続音になります。
ブブ	スリープから復帰した場合
ビービー	リモコンでエンジンが始動しない場合
ビービー・ ビービー・ ビービー	オルタネーター (L端子) 配線が間違っている場合
ビービービー	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合
ビー・ビー・・・(繰り返し)	車輛との相性が悪い (悪くなった) 場合 (イグニッションランプとエラーランプが交互に点滅) *当社サービスへお問い合わせください。 ●警告音はキーをONにすれば停止します。

モードスイッチメニュー

		OFF	ON
1	予熱時間	ガソリン車と予熱 (グロー) 時間が6秒未満のディーゼル車	予熱 (グロー) 時間が6秒以上のディーゼル車
2	シフト検出	シフトポジション検出有効	シフトポジション検出無効 ※フットブレーキへの配線が必要です
3	始動検出	L端子線接続を自動認識し当社専用回路にてエンジンの始動状態を検出する	オルタネーターのL端子線の変化のみでエンジンの始動状態を検出する
4	IDモード	通常動作	リモコンのIDコードを登録する

● 仕様

■型式名	ES-2T
■技術基準	RCR 標準規格 テレコントロール用 無線設備適合
■送信周波数	426MHz 帯の 10 波のうち 1 波使用
■通信方式	単方向通信方式
■送信出力	1mW 以下
■電波方式	MSK 変調 1200bps
■呼出名称	送信時自動送出
■周波数安定度	± 4ppm 以下
■周波数偏移	± 2.5kHz
■スイッチ	エンジンスイッチ (スタート/ストップ)
■重量	20 g (電池含む)

■型式名	ES-2R
■受信周波数	426MHz 帯の 10 波のうち 1 波使用 - 9db μ V 以下
■受信感度	± 4ppm 以下
■局発安定度	± 4ppm 以下
■アンテナ	1/4 λ 室内アンテナ
■動作温度範囲	- 20°C ~ + 70°C
■復調コード	アドレスコード 32 ビット / コントロールコード 8 ビット
■電源電圧	最低動作電圧 DC8.5V 最高動作電圧 DC16V
■パワー系制御電流	突入電流 80A 最大電流 25A
■外観寸法	30mm (H) \times 114mm (W) \times 80mm (D) (突起部除く)

リモコン

■送信確認方法	ブザー
■送信時間	3 秒以上
■送信休止時間	2 秒以上
■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■制御コード	アドレスコード 32 ビット / コントロールコード 8 ビット
■動作温度範囲	- 20°C ~ + 60°C
■定格電圧	DC3V
■使用電池	酸化銀電池 SR44 \times 2 個
■電池寿命	電池交換なしで 10000 回以上送信可能
■外観寸法	65mm (H) \times 29mm (W) \times 12mm (D) (突起部除く)

本体

■消費電力	通常待機時平均 10mA 以下、 スリープモード時 500 μ A
■始動検出	専用ハーネス (自動)、 オルタネーターL端子 (選択)
■安全対策	パーキングポジション (自動)、 フットブレーキ (選択) ドア開放 (任意)、ボンネット開放 (任意)
■ヒューズ	自動車用ブレードヒューズ 25A
■タイマー	20 分後自動停止
■重量	300 g

仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※ この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

《保証規定》

本製品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態でのご使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理させていただきます。

● 修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。

また、修理の際は必ずリモコンと本体をセットでお渡しください。(リモコンのみでは修理できません)

● この保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

● 本保証書は再発行致しませんので、大切に保管してください。

なお、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

- お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
- 製品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
- 火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
- 適合外車輛へのお取り付けや、当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
- 取付・取扱説明書中の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損害等。
- 保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。

● 消耗部品 (電池、アンテナ等) やリモコンのケース破損は保証対象外です。

● 修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。

● 本製品の製造中止 5 年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。

※ 保証期間経過後の修理については、お買い求め頂いた販売店又は当社サービスまでご相談ください。

修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

株式会社 **サンビツ**

〒189-0014 東京都東村山市本町 3-5-36

サービス TEL 042-396-6566